

(別紙3)

まちづくりシミュレーションゲーム SIM2030うご町版 報告

1. 開催日

平成31年2月12日(火) 10:55~12:45

2. 開催場所

羽後高校1階学習室

3. 目的

- ①対話による合意形成を目指す
- ②社会形成を自分事と捉えて参画する態度を養成する
- ③ビジョンやゴールを持って取り組む重要性について気づく

4. 参加者

羽後高校3年生 60名  
羽後高校教員 3名  
羽後町役場職員 3名  
羽後町地域おこし協力隊 3名  
慶應義塾大学 1名

5. 成果と課題

架空の「うご町」ではあるが、実際の羽後町をモデルにしており、その意味でも羽後町について考える良いきっかけになったようだ。近年「対話」によって自分事として町づくりや社会形成に参画する態度が求められて来ているが、主権者教育としての効果も感じられた。高校生と羽後町役場職員が協力してSIMを制作したことにも大きな価値があった。

課題としては、経験者がいるテーブルとないテーブルでは考察する深さが変わってくることと、振り返りの時間をしっかり確保しないと目的を十分に達成出来なかったことが上げられる。ノウハウは残ったので、今後の総合的な学習の時間や探求の時間に活用できるよう調整していきたい。

6. 感想より

(社会人)

- ・ゲームではあるが、今の羽後町と重ねて考えている子が多く、リアル感がでて良かった。みんなの意見を聞く時間が無かった。
- ・目指す町によって維持廃止の仕分けが決まってくると感じた。
- ・ゲームを実施することで何を養うのかを予め伝えた方が良いと感じられた。(生徒の意識を前に向かわせる)
- ・事例に対して具体的に考えることができるゲーム!!!色々な考え方があって面白い。正解がないから自由に発信できる!!!

・自分達で普段考えることのない行政、町の方向性を考えることは有意義だし、これによって町について考える機会になればと思う。

・具体的な施策、詳細な内容なども詰めながら提案できれば良かった。楽しく体験することができた。

(高校生)

・2回目の実施だったが、同じ方法ではなく、別の考えができて良かった。

・難しかったけど、楽しかったです。色々な意見があって面白かったです。

・先のことを考えながら借金したり事業を廃止したり・・・難しかったです。このようなシミュレーションは違う形でも応用できそう。

・とても楽しく取り組むことができました。将来のうご町をイメージして話し合った結果、若者向けになってしまった。高齢者にとっても住みやすい町にする必要性を感じた。

・班で協力して、イベントや福祉について考えることができて、良い時間になった。

・自分の住んでいる町について見つめ直すきっかけになった。

・町の事業について深く考えることが出来ました。

・事業を廃止することでどんな影響があるのか、その理由は何なのか、借金した場合の返済はどうするのか・・・など考えさせられることが多かった。

・難しかったです。現在のこと将来のことを考えての町づくりだったので悩むことが多かったです。

・ビジョンを持って取り組まないと何の特徴も無いまちになってしまうと感じた。

・普段考えることが無いことなので、余計に頭を使いました。

・理想の町づくりに向けて、何かを犠牲にしないといけない時もあるということ、お金のやりくりが必要だということを知りました。優先順位のしっかり考えることの大切さを改めて知りました。行政職員は大変ですね。

・難しい話だったけど、ゲームすることによって楽しくすることができました。秋田にディズニーランドのような施設をつくって欲しいと考えていたけど、簡単な話ではないと実感しました。

・とても良い体験になりました。自分も町のために今できることを考えていきたいです。

・羽後町の現状を詳しく知れて良い体験になった。羽後町の自然を守りつつ活性化させるのは難しいことと感じた。

## 7. 当日の様子



①できた町について報告



②全体の様子



③予算案作成中